

1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し (全国市中数量調査の自社所有分による)

* 上段は前期比在庫増減、中段〔 〕は在庫水準、下段()は在庫水準前期比(%) (自社所有分に限る。
点線内は全鉄連による予想数字 ()内は誤差率=予想値÷実績

平成23年6月末	平成23年9月末	平成23年12月末見通し	平成24年3月末見通し
+62千トン 〔 2332 〃 〕 (102.7%)	-4千トン 〔 2328 〃 〕 (99.8%)	-64千トン 〔 2264 〃 〕 (97.3%)	-46千トン 〔 2218 〃 〕 (98.0%)
2370千トン(101.6)	2232千トン(95.8)	*	*

2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

平成23年6月末	平成23年9月末	平成23年12月末見通し	平成24年3月末見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は81,900円で前年比-500円、前期比では-1,900円。5月連休明けから荷動きが落ち込み、6月もその基調を引きずった。販売量低落、市況は軟弱地合となり、見通し的にも暗いものがあり、市場環境は最悪であった。震災の爪痕は深く、製造業関連の生産水準は旧に復さず、回復への歩みは遅々としていた。また、夏場に想定される電力不足が不安材料だった。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は80,000円で前年比+2,200円、前期比では-1,900円。5~6月の最悪期を脱し、電力不足の夏を乗り切り、秋口には回復感が漂っていた。製造業関連は震災前の生産水準に近い状態となったが、円高、タイの洪水と不安材料も露呈し、見通しが不透明となっていた。また、復興需要は本格化せず、行政の具体的施策が待たれる段階であった。市況には上昇期待があった。	荷動き好転、市況上昇の期待感は見事に裏切られ市場には先安感が根強い。一方、不振の建設需要には復調の兆しが見えてきたようだが、大都市圏と地方ではかなり温度差があり、地域間格差は拡大。製造業では円高の長期化で輸出関連企業採算悪化、それを逃れるための海外移転による産業空洞化で先行き不安感が高まっている。今後、建設や復興需要に期待感はあるが未だ具体化していない。	前期の横ばい基調で推移するだろう。建築土木関連の需要は例年のこの時期に比べより多く見込まれている。在庫はさらに圧縮されるだろう。そして、それらを背景にした価格動向であるが、これが一気に好転するとは思えない。容易に先安感を払拭できそうにない。公共事業、再開発、震災復興など、いつに掛かってそれらの需要の出方が鍵になりそう。それに加えてスクラップ動向によっては条鋼品種に小幅な上昇はあるかもしれない。

3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

「いい市場環境になるまで在庫を増やさないように、凌いでいく」との市中扱い業者の声にあるごとく、在庫意欲はない。一部電炉メーカーの2カ月連続下げにより引き合いは引込み、市況は先安感が強い。このような市場環境が改善されるまで流通は当用買いに徹することになる。

4. 大阪、愛知の動向

(大阪) 国内販売の不振や円高から今後さらに海外移転に拍車がかかりそう。建築関連需要は、他地区では震災復興需要が出たと聞けるが、関西地区では動きが見られず、依然盛り上がり欠けている。12月になって、スクラップ価格が調整場面に入った感があり、そろそろ動きが見られても良いころだが、内需喚起のための早急な対策が実行されなければ、先行き不安感は払拭できそうにない。

(愛知) 自動車関連は9、10、11月と好調であったが、円高やタイ洪水の影響で不透明感が出てきている。建築は中小物件に息切れが見えている。ファブの仕事は2、3月まで埋まっているが、新規案件が見えず、関東案件の受注に力を入れている。店売りに関しては、在庫意欲なく、当用買いに徹している。2、3次店の在庫調整は終了しているが、高い在庫品を抱えているため苦戦を強いられている。市況の先安感が未だに根強く。